

太田まさたか

おおた



プロフィール
昭和39年生まれ 59歳
《役職歴》土木委員会委員長、農林水産委員会委員長、
総務委員会委員長、県監査委員、県議会副議長
(選挙区岡山北区加賀郡)

県政だより

令和6年 新春号
VOL.53

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

新春をお慶び申し上げます

旧年中は私の県議会議員活動に對しまして温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。昨年、世界は戦争により混乱し、大きく変化した年でした。一方、県内では県民を元気づけた出来事、事業も数多くありました。年明け早々、全国高校サッカー選手権大会、全国高校サッカークロスカット大会、春のG7倉敷労働雇用大臣会合開催、秋のおかやまマラソンの完全復活等です。そして、私たちの周りを見ると、凄まじい勢いで社会のデジタル化が進んでいます。その結果、通信、金融、買い物、ゲームなどの分野で利便性が向上する一方で、人間の喪失、コミュニティの弱体化等が起きています。こうしたことが進んでいる時、司馬遼太郎の「洪庵のたいまつ」という文章に出会いました。初めの文章に「かれ（緒方洪庵）は名を求

めず、利を求めなかった。あふれるほどの実力がありながら、しかも他人のために生き続けた。そういう生涯は、はるかな山河のように、実に美しく思えるのである」とあります。今、こうした人がどれだけののだからかと思うのです。文章の最後では、緒方洪庵は自分の恩師から引き継いだたいまつを自分の弟子たち一人ひとりに移したと洪庵の人としての素晴らしさが書き表されています。緒方洪庵の弟子たちには佐野常氏（日本赤十字社創立者）、橋本佐内、福沢諭吉（慶應義塾大学創立者）、長与専斎（初代内務省衛生局長、大村益次郎（日本陸軍の創始者）、大島圭介らがいます。続けて、「やがてはその（弟子たちのたいまつ）火の群が、日本の近代を照らす大きな明りになったと結ばれています。私は、県民が苦しむ今の社会を「ま

しな社会にすること」と伴に、今後の日本を担う人材を育てることが、今大切なことと考えます。今年の千支は辰です。今年、私は還暦を迎えますが、県政においては、五月二十六日（日）ジップアリーナでの全国植樹祭の開催、秋の県知事選挙などがあります。県政発展、県民福祉向上のために全力投球します。令和六年が岡山県にとって飛躍発展の年になると伴に、県民の皆さまが笑顔と希望に満ちあふれる素晴らしい一年となることをお祈り申し上げます。

知事 国、兵庫県と連携の仕方について
今回の事故で中国自動車道への迂回を余儀なくされた。十二月十五日から通行止め解除となったが、姫路・赤穂方面の道路網の弱さを露呈した格好となり、東備地区のみならず、県全体に大きな影響を与えた。今回の件を踏まえて、兵庫との県境の幹線道路整備をどのように考えているのか。

知事 教育再生の目的について
山陽自動車道尼子山トンネル火災事故からの教訓は？
前々回、前回と緒方洪庵、山田方谷を取り上げて、お二方とも塾というものに深く関わりの合いを持ち、関係の塾から多くの逸材を輩出している。池田光政は君子の儒となろうとする目的から学問修行をされ、家老重臣たちにも修学を奨励するに留まらず、徳治主義、仁政主義を徹底させるために花鳥教場を設立し、また庶民の子弟にも数多くの手習所の設置をしたと谷口澄夫氏著書「池田光政」にある。その当時に必要な人材を育て上げた面も強いが、領内に教育が広がり、庶民の教育水準を高めたことは、その後の歴史を見ても明らかである。光政が教育界岡山の礎を作ったと考える。そして、今、知事は教育再生に取り組んでいる。今こそ温故知新ではないのか。県の教育再生の目的は学力向上のみにあるのではなく、

知事 本県の創造・発展に積極的に貢献できる人材を育成していくことであり、そのためには、未来の創り手となる子どもたちに予測困難な未来社会を自立的に生き、社会形成に参画するために必要な資質や能力を身につけさせることである。
脱炭素化への取組
今議会での企業誘致の質問に答えて、企業誘致の重点を「雇用確保」から「良質な仕事」に変えているとのこと。また、前回の私の質問に答えて、「マザー工場を大切に」との言葉もあつた。そして、今回、脱炭素化も打ち出された。こうしたことをまとめていくと、本県が強みとする石油化学コンビナート関係に注力して、

NEEBの視察(岡山ガス)



NEEBとは
ネットゼロエネルギービルのこと。岡山ガスの新社屋は、天井にはエアコンがなく、床から空調をしていく。NEEBの視察(岡山ガス) 十月十七日

益城町の復旧復興(益城町)



二〇二六年に熊本地震被災地の益城町は元気に復興していた。応援に入った総社市に感謝されていた。現在、町を挙げてバドミントンを応援している。益城町の復旧復興(益城町) 十月十七日

第四十回伝統的工芸品月間(ハレワ、コンベックス岡山)



全国の工芸品が紹介され、多くの人が会場を訪れていた。第四十回伝統的工芸品月間(ハレワ、コンベックス岡山) 十月三日

日本拳法岡山県総合選手権大会(岡山商科大学体育館)



日本拳法岡山県総合選手権大会(岡山商科大学体育館) 十月十九日

宮内おどり(宮内神社)



宮内おどり(宮内神社) 十月十八日

益城町TSMC視察(益城町)



半導体製造装置や半導体材料等の生産企業が九州に約二百社ある。益城町は水も豊富である。こうした背景のもとTSMCが進出を決めた。益城町TSMC視察(益城町) 十月十八日

中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練(益田ダム周辺)



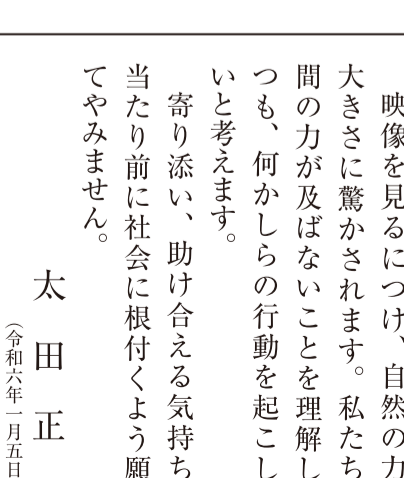
南海トラフ地震を想定して高さ13~15m総延長17.5kmの築堤をしている。総事業費330億円。300億円を一条工務店が寄付している。中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練(益田ダム周辺) 十月十九日

一条堤視察(浜松市)



二〇二六年に熊本地震被災地の浜松市は元気に復興していた。応援に入った総社市に感謝されていた。現在、町を挙げてバドミントンを応援している。一条堤視察(浜松市) 十月十七日

おかやまマラソン



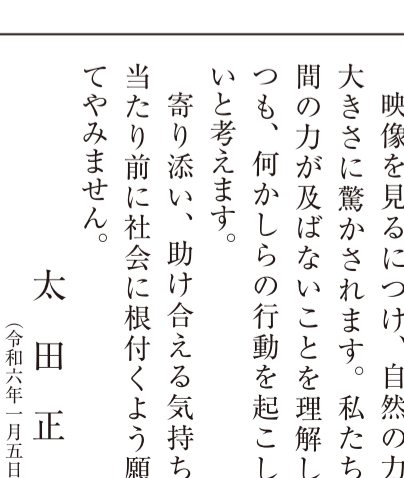
16,000人のランナーが参加。おかやまマラソン 十月十日

社会を明るくする運動(吉備中学校)



元保護士の先生から更生保護の大切さをお話を伺った。社会を明るくする運動(吉備中学校) 十月十八日

みつ健康マラソン大会



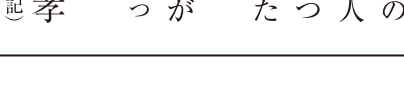
1,100人が力走。最高年齢参加者は85歳。みつ健康マラソン大会 十月十日

新型やくも見学会(岡山駅)



新型やくも見学会(岡山駅) 十月十四日

囲碁棋士佐田篤史アジア大会出場祝う会



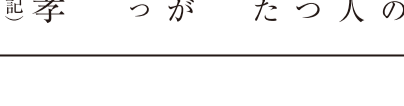
囲碁棋士佐田篤史アジア大会出場祝う会 十月十日

日本拳法岡山県総合選手権大会



日本拳法岡山県総合選手権大会(岡山商科大学体育館) 十月十九日

宮内おどり



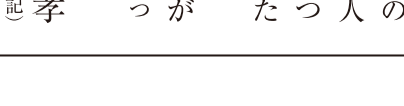
宮内おどり(宮内神社) 十月十八日

文部科学大臣表彰記念式典



文部科学大臣表彰記念式典(吉備神社) 十月十八日

文部科学大臣表彰記念式典



文部科学大臣表彰記念式典(吉備神社) 十月十八日

本年元日に能登半島地震に襲われてお亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。救命救助にあたられている方々には労いを申し上げます。映像を見るにつけ、自然の力の大きさに驚かされます。私たち人間の力が及ばないことを理解しつつも、何かしらの行動を起こしたいと考えます。寄り添い、助け合える気持ちが当たり前になる社会に根付くよう願ってやみません。

太田正孝 (令和六年一月五日記)

「脱炭素化」という重い課題をチャンスに変えるのが知事の仕事ではないかと思う。それでは、どういう分野においてどういう目標を掲げて産業振興を図ろうとしているのか。

【知事】水島コンビナートをはじめ、優れた技術を有するモノづくり企業が集積していることを強みに、自動車、半導体、AI・IoT関連等の分野について最新情報提供や研究開発支援などを行っている。これら分野で早期参入や市場獲得を促進することで、バランスの取れた厚みのある産業構造を形成し、本県産業振興を図って行く。



水島コンビナート

入・貯蔵等の場の整備、「石炭火力発電における燃料アンモニアの混燃」、「港湾オペレーションの脱炭素化」、「港湾・臨海部に立地する産業等の脱炭素化」などに早期に取り組みことを提案する。水島コンビナートについて、知事のご所見を伺いたい。

カーボンニュートラルについて

【我が国のCO2排出量の約六割は発電、鉄鋼、化学工業等に立地することから、カーボンニュートラルの取組が加速しているが、それには大きく二つの取組がある。

【脱炭素化に向けて活用が見込まれる水素・燃料アンモニア等の輸入・貯蔵等の場として整備すること。

【もう一つは、脱炭素燃料の利用等による「港湾オペレーションの脱炭素化」、「港湾・臨海部に立地する産業等の脱炭素化」である。神戸港等での取り組みが先行している。大型タンカー接岸可能な水深十六mの航路と岸壁を待ちLNG輸入元のオーストラリアの



【知事】環境価値の高い港湾として競争力を高めていくとともに、水島港湾エリアが国際的なカーボンニュートラルに貢献するエリアとして、更に発展していけるようにコンビナート企業や関係機関と連携して、必要な取組を推進していく。

港姉妹縁組にある水島港は、鉄鉱石輸入量国内第四位、LNG発電量は瀬戸内海港湾第七位で水素 アンモニア燃料等の形成について高い優位性を有している。そして、水島コンビナートには多くの産業が集積し、将来的に大規模な水素利用が期待されるエリアである。

【知事】環境価値の高い港湾として競争力を高めていくとともに、水島港湾エリアが国際的なカーボンニュートラルに貢献するエリアとして、更に発展していけるようにコンビナート企業や関係機関と連携して、必要な取組を推進していく。

太田正孝の一般質問特集②

吉備中央町上水道水質問題

【脱炭素化】という重い課題をチャンスに変えるのが知事の仕事ではないかと思う。それでは、どういう分野においてどういう目標を掲げて産業振興を図ろうとしているのか。

1. PFOAが溶出したのか否か

【一点目】このフレコンバッグに入っていた使用済み活性炭は有価物か否か調査中とのことだが、それが野ざらしで長期間放置されて、吸着されていたPFOAが再び溶け出してしまったのか、何が主な原因と考えられるのか、訊ねた。環境文化部長は、「フレコンバッグ置き場が発生源の可能性が高いと考えている。実際の溶出の状況は分析中の土壌結果を踏まえる必要がある」と答弁した。

2. 保管方法

【二点目】このフレコンバッグ管理者はPFOAが有害性を保有しているとの認識を持っていただけた。また、この保管方法は適切だったのかと訊ねた。環境文化部長は、「搬入された活性炭とPFOAとの関連性については把握していません。管理者がどの時点で有害性を認識したかについては今後の調査で確認する。十分な管理が出来ていなかった点で問題があったと考えている」と答弁した。

3. 土壌の浄化

【三点目】現実として、このフレコンバッグが置かれていた土地周辺で土壌汚染が起きている恐れがある。土壌汚染が起きている場合、土壌の浄化を誰がいつまでに行わなければならないのか。原因者が分からなかった場合、県が土壌の浄化を行うのかを訊ねた。

4. 河平ダム

【四点目】河平ダムの水を元のように入道用利用するための条件は何で、どういう対応をすればクリアできるのかを訊ねた。

【保健医療部長は、「一般的には水道事業の水源確保に当たっては、浄水処理後に水質基準や暫定目標値などをクリア出来ていない水は水源として適当でない。現時点では高濃度の有機フッ素化合物を浄水処理した事例はなく、その手法は確立されていない」と答弁した。

5. 水道供給の正常化

【現在の緊急措置のままで農繁期が来ると、水不足の恐れが生じる。夏場に給水制限となることとが心配である。こうした状況下の時、水道事業者と県当局は手を携えて、来夏に困らないように対応を図って頂きたい。今後答弁した。



河平ダム

【保健医療部長は、「町は広域水道企業団からの受水への全面切り替えを計画している。令和六年七月末までを目途に、送水ポンプ場の受水槽及び送水管の整備工事を実施し受水量を増加させ、最終的には、令和七年度までに施設整備を完成させる予定と聞いている」と答弁した。

【私から円城浄水場からの水を安心して新年を迎えることができるようにとの要望もした。

6. 県のフォロー

【この有機フッ素化合物の健康被害については、環境省や厚労省でも影響はハッキリ分かっていない。町だけでは、町民の健康対策、環境対策、水道の新たな施設整備にしても限界があると察するが、県が国に見解を求めたり、吉備中央町にもっとプッシュ型支援を行うといった県の更なるフォローが必要なのではないかと訊ねた。知事は、「事案判明後から全力でプッシュ型支援をしている。引き続き、町と緊密に連携を図りながら支援していく」と答弁した。

太田正孝の一般質問特集①

岡山市の新アリーナ建設、県と市の協議は!!

これまでの経過

【岡山市の一昨年(二〇二二年)の基礎調査時の施設整備費は約八十一億円を見込んでいた。そして、昨年十一月の基本計画公表時には事業費が約百四十五億円となった。この基本計画は岡山商工会議所の要望を受けて、岡山市がまとめたものである。そして岡山市(以後、市)からこの計画策定に参画していない岡山県(以後、県)に費用負担を求めて来られた。その対応として、県は事務レベル協議を求めたが、トップ会談を求める市とで入口の所から話が進展しない状況となった。そうしたなか、十一月定例岡山県議会開会直前に市側から昨年十二月中旬に県の回答を求められた。

【私は、県の費用負担の是非について、県民が何も分からないまま決まってしまうことは望ましい姿ではない、この定例県議会一般質問で議論を深めるべきとの考えから、私は県議会一般質問への登壇を決意。今定例会での一般質問通告が締め切られると、二十四人が通告したことが分かった。質問の順番が決まると、私はトリの二十四番目。これにはびっくり。この質問の準備をしていたが、最後となると議論は出尽くしているものと思っていた。ところが、質問通告者の通告項目を見ていると、新アリーナに関するものはなかった。二十四人中最後の私だけがこの件を取り上げることになった。こうなると、腹をくくって質問するしかない。知り得ていることを整理して臨むことにした。

県の見解

【十二月十五日、登壇となった。最初に、昨年六月定例会民主県民クラブの代表質問での県当局の答弁を紹介した。その内容は、「岡山市の新アリーナについては利用者の利便性が高まる。県はジップアリーナとの利用調整面で協力する。(中略)今後ともトップクラブチームの状況やチームを取り巻く環境の変化に対応しながら支援に取り組んでいく」というものだった。

【この答弁について、前段と後段に分けて質問を組み立てた。まず「答弁の前段」に関して、旧岡山市内の屋内体育施設数が少ないと思っていたので、今回の新アリーナ建設でハード不足解消に少しでも繋がればと願う気持ちが起こった。もう一方で、

百四十五億円かかるアリーナ建設も必要との立場の市に対して、県の立場で見るとどうであろうかと考えた。今回の件は支出根拠となる決め事もルールもない。そして県の財政状況となると、県債残高は約一兆三億円と高止まり、社会保障関係費が今後も年約三十億円増加する見通しで、令和五年度当初予算で知事が追加・拡充した事業、所謂知事査定は約二億円しかない状況だった。岡山市から、岡山市外の経済波及効果があるの費用を負担せよと言われて、さぞ困惑していると察した。以上、私の受け止め方を申し上げた上で、新アリーナ建設に対する県当局の姿勢を訊ねた。堰を切ったかのように知事から県負担についての考え方が示された。その要旨は次の通り。経済波及効果の計算をやり直すと、市が主張する負担根拠としていた経済波及効果の比率が市内六十四%、市外三十六%に逆転。また、市はプロスポーツの利用を第一とする方針を示しているが、県が負担するとなれば、プロスポーツ支援を目的とするだけでなく、広く県民が利用できることが前提となる。全ての県民が新アリーナをどのように利用できるのか。また、既存のジップアリーナなどと合わせて県民が利用しやすいものになるのか、など新アリーナによる県全体の効果を十分検討する必要がある。そうした検討は、これまで出来ておらず、その状況で市が十二月中旬に回答を求めたのであれば、県としては新アリーナ建設への費用負担について期限までに回答することは困難である。以上である。

【この答えを聞いて、再質問を何度か行った。知事はさらに詳しく答弁をして下さった。回答を幾つか列挙する。「我々は『ジップアリーナ』という県の体育館を持っているので、市で体育館を作ること自体は悪くない」「市が施設をつくるのなら運営がスムーズにいくよう協力するつもりだったが、突然費用の負担を求められ、正直困惑している。われわれの協力がなければ動かないと言われることについてはさらに分からない」等であった。

プロスポーツチームの現状と将来性

【次に、「答弁の後段」今後の



新アリーナ候補地

【プロスポーツ支援という観点から質問した。現在、プロスポーツチームによる地域貢献活動には、「次世代育成」、「地域活性化」等大きく五つあると言われ、プロスポーツチームの存在は、行政が持つ課題を解決する一手段となってきた。しかし、どのチームも期待に応えられるとは限らない。気持ちばかりだけでなく、客観的にチームを評価することも重要である。また、どのトップリーグも、「競技施設規格」並びに「チームの財務内容」について発足時よりも高い水準を求めるようになった。私は、今回、プロスポーツ支援の関わり合いを整理しておく必要がある。経済産業省関東経済産業局が、地方自治体と連携して地域活性化に取り組み、成功に至ったプロスポーツチームの調査をして、成功要因の共通項四点を突き止めたことを知ったからだ。

- ① 知名度の高さ
- ② 公共性の高さ
- ③ 民間企業との相互補完
- ④ 行政との効果的な連携

【こうした力を持ち合わせているのかどうか見ても分かる。県民の貴重な税金を使うことは許されない。特にプロスポーツリーグ専用競技施設の建設に当たっては、チームの経営計画を県民に提示することは必須であると考える。以上を踏まえて、施設整備準備に当る前に、対象チームの経営力と将来性について訊ねた。環境文化部長から、「現状の売上高や観客動員数、経営状況等を踏まえた上で、将来の経営計画を確認し、集客力や収益力に加え、地域貢献活動などをしっかり検証した上で、評価する必要がある」との答弁があった。再質問で、対象チームに対して、これまでこういうことを確認したことがあるかと訊ねると、踏み込んで聞いたことはなかったようであった。

【この県政だよりが届く頃には、県民に分かるような協議が始まっていることを望みたい。

太田正孝の一般質問特集③

トップリーグ適合 サッカースタジアム建設、どうなる!?

【現在、経済界が進める新アリーナ建設署名活動にファジアーノ岡山が参加している。サッカースタジアム建設を熱望する自分たちの思いを抑えて、仲間のプロスポーツチームが頑張っている時に汗をかく姿に感銘を受けた。これが岡山愛なんだ、ワンチームを作ろうとする

【リリーダートンこの思いがして、トップリーグ適合サッカー専用スタジアム建設を質問に取り上げることにした。過去の知事の発言を調べると、取材に対して「これだけ岡山でサッカーが盛り上がる時、いずれサッカー専用スタジアムがあっても宝の持ち腐れということにはならない

【だろ」と発言されたり、県議会で「整備主体、今後の経済界での検討、県民の機連の高まりなど、状況を見てから」と答弁をされたりしている。これらの発言を踏まえて、サッカー専用スタジアム建設にゴーサインを出すのは、チームの成績、経済界の協力、県民の機連の高まり等がどれくらいになった時なのかを質問した。知事はこれからの情勢を見極めると答弁した。

※十二月二十一日、フレコンバッグが置かれた土地の表層土壌を検査した結果が公表された。二・二七七五ppm/とであった。この土地が更に疑わしいこととなった。